

**大山町地方創生事業の効果検証結果について
(令和7年度実施事業の検証)**

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
1	多様な人が活躍できる環境を整え、地域に根差した魅力的な人材を育成・誘致する事業 地域住民による大山の美化を推進する事業に対する支援 「大山の美化を推進する会」 実績額：100,000円	県内外に広く呼び掛けての清掃活動の実施。 自然や景観保護のポスターを地域内の公共施設等に掲示し、この地を訪れる方や地域の方への意識啓発を促した。 <担当課分析> 春と秋に清掃活動と呼びかけたところ、県内外から多くの個人・団体にご参加いただき、美しい自然を守る取り組みの意義を多くの方に体感いただくことができた。	総合戦略のKPI達成に有効	・春と秋の大山一斉清掃の活動は、大山地域を守る心の醸造と大山独自の環境保全活動に貢献しており、地域内外の多くの方にPRと清掃活動の呼びかけの継続をお願いする。 ・大山の美化は重要な取組だと考えるが、この取り組みによりどの課題をどの程度解消するつもりだったのか明確化したほうが良い。 ・ブランドイメージを高める良いデザインのポスターが10万円以内で作成でき、なおかつ広く配布されたことは費用対効果の面でも大変有効であった。 ・地域内外の多くの方へ大山美化活動を促す取り組みであり、大山へ興味・関心を持っていただき関係性の高まりが期待できる。 ・一過性のイベントに終わらせず、持続的な美化意識の定着や観光価値の向上へどう繋げていくかがポイント。 ・ボランティア参加者へのインセンティブ付与を行い、リピーター及び新規参加者を増やす工夫をされてはどうか。
2	多様な人が活躍できる環境を整え、地域に根差した魅力的な人材を育成・誘致する事業 地域住民による大山の観光振興のための景観の維持に関する事業に対する支援 「大山清掃事業」 実績額：1,700,000円	国立公園内173haのごみ飛散状況を確認するとともに、回収可能なごみはその場で対応した。 清掃活動日数 351日 収集ごみ量 94.04kg <担当課分析> この活動の実施により、景観・自然環境を守ることができ、いつ来ても美しい大山の維持につながった。	総合戦略のKPI達成に有効	・一年を通してほとんど毎日のパトロールは称賛に値する。 ・継続した取り組みとごみに対する意識啓発を今後の課題としてほしい。 ・清掃活動を単なるボランティアで継続していくことは難しいと考える。大山の環境を守る視点でも必要な取り組みだと思われる。 ・1日あたり1人～2人とあるが、ここでは延べ何人のボランティアスタッフが携わり、人材育成に寄与したかをPRすべき。 ・観光地大山に必要な景観・環境維持は必要不可欠であり、継続的な取り組みが必要であると考え。但し、総合戦略KPIのIJUターン者数の増加に直接反映している事業が判断が難しい。 ・年間を通じてほぼ毎日に近い日数で景観維持活動が行われており、観光地の基盤として極めて重要な事業。 ・ボランティアへの依存度や持続可能性を注視しつつ、誘客の好循環を生む仕組みづくりを期待する。

**大山町地方創生事業の効果検証結果について
(令和7年度実施事業の検証)**

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
3	多様な人が活躍できる環境を整え、地域に根差した魅力的な人材を育成・誘致する事業 大山町長による国内外の友好都市・姉妹都市、大山町の特産品（農産物等）の販路開拓等の旅費 「シティプロモーション事業（普通旅費）」 実績額：50,680円	大山町長と嘉手納町長との意見交換を実施し、今後の人材育成交流、職員相互派遣について協議を行った。また、嘉手納町内外から約3万人の参加がある野國總管まつりのステージで大山町の魅力発信及び特産品PRを行った。本訪問による自治体間ネットワーク構築により、相互のイベントで相互の地域特産品を販売することができた。（嘉手納町産業祭、大山夏山開き祭） <担当課分析> 町長が自ら大山町の魅力を発信することで、地域特産品を町外イベントで販売する等、短期間で効果があった。今後は取り扱い店舗を開拓する等さらなる販路拡大となるようPRする必要がある。	総合戦略のKPI達成に有効	・なぜ嘉手納町なのか、大山町を売り込むのであれば、沖縄にこだわらなくても良いのではないかなと思う。 ・どの程度嘉手納町から大山町への旅行者や転入等があったかを定量的に評価できるとなお良い。 ・シティプロモーション戦略は、役場のみならず商工・観光・農業などの様々な分野を巻き込むことで可能になると思われる。町長の発信力は高いが、活かしていく方法を検討していく必要性を感じる。 ・友好都市・姉妹都市との交流は積極的に行うべき。様々な視点を持ちながら継続することを心がけ、より密接な関係構築に取り組むことが重要。 ・トップセールス、地域特産品のPR活動は、域外販路開拓に向けて効果が期待できる。 ・単なる訪問に終わらず、具体的な特産品の継続的な販路拡大や経済的リターンにどう繋げるかを検証する必要があると考える。例えば、BtoBの継続的な商談機会を構築するなど。
4	地域の資源を活かし魅力的で持続可能な産業を発展させる事業 地域の畜産物におけるゲノム検査を行う団体に対する支援事業 「ゲノム検査補助金」 実績額：312,000円	ゲノム検査費用に対し一部補助1頭あたり2,000円補助 検査頭数156頭 <担当課分析> 従来は搾乳牛になるまで各個体の生産能力は判明しなかったが、育成段階の牛のゲノム検査により、生産能力の推定及び疾病リスクの把握が可能となり、飼養管理に役立てることができた。 生乳生産可能月齢まで期間が空くこと、飼料高騰による代替飼料への変更や気候変動による影響等、生乳生産量に影響を及ぼす要因は複数あるため、一概に生産量で評価することは困難であるが、優秀な牛群を構築し生産環境の安定化を目指すためにも継続して支援する必要があると考える。	総合戦略のKPI達成に有効	・ゲノム検査への支援は、牛群全体の遺伝的能力を向上させ、生乳生産量の維持・増加のために有効的な取組であり、町の基幹産業である畜産業を魅力的で持続可能な産業に発展に寄与している。 ・酪農への新規就農者が町内で増加しており、若手の酪農家の意見を聞き、堆肥の耕畜連携や畜産環境対策への支援の拡充をお願いしたい。 ・地域の一次産業発展のために行政も助成するのは大事なことで業者の意欲向上につながればよい。 ・複数年しないと成果は図りにくい。まずは予算を使い切るよう、PRに力を入れるべき。また予算に達しないのなら、1頭当たりの補助額を上げてはいかがでしょうか。 ・飼料高騰・気候変動などコントロールできない外部環境において、ゲノム検査により早期に個体の生殖能力や疾病リスクを見える化し、生産リスクをヘッジ出来たことが大きな成果であったと評価。

**大山町地方創生事業の効果検証結果について
(令和7年度実施事業の検証)**

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
5	地域の資源を活かし魅力的で持続可能な産業を発展させる事業 優良雌牛導入保留を行う団体への支援事業 「優良雌牛導入保留奨励事業補助金」 実績額：1,000,000円	・優良雌牛の購入支援 2頭（10万円/頭） ・自家にて生産された優良雌牛を繁殖牛として保留することに対して支援 8頭（10万円/頭） <担当課分析> 和牛繁殖農家の高齢化および物価高騰による経費増加による廃業及び新規事業開始時の初期投資額が大きく、飼養管理には膨大な知識経験が必要なこともあり新規参入が困難な産業であることより、全国的に繁殖農家数が減少傾向にある。 繁殖農家の減少により、子牛の流通量の減少しており、肥育農家の和牛子牛の確保競争が激化し取引価格が高止まりしている。 そのような状況下で和牛繁殖農家の繁殖基盤の維持強化のため優良繁殖雌牛の導入・保留により、優良和牛子牛の安定生産および和牛繁殖農家の経営の安定化に資することができた。産業基盤を維持するためにも継続して支援していく必要がある。	総合戦略のKPI達成に有効	・優良子牛の購入や保留により、町の基幹産業である畜産業に貢献している取組であり、令和9年8月に開催される北海道和牛能力共進会で大山町からも出品され、優秀な成績が納められるように継続して支援をお願いしたい。 ・地域の資源を活かし、今後に発展させるため頑張っている畜産農家に、いくらでも補助・支援して今後も持続可能な畜産であって欲しい。 ・畜産部門の強化策として必要と思われるし、後継者が育つような支援も併せてあるとよい。 ・畜産事業を継続する意欲とキャパシティがある者にはぜひ取り組んでいただきたい。 ・町の重要産業である畜産業の生産環境の安定化、持続的発展を目指すなかで継続すべき取り組みである。 ・子牛の流通量減少や取引価格への営業がある中、生産者のモチベーション維持と経営安定化に直結しているため、次年度以降も継続・発展させるべき事業と考える。
6	多様な人が活躍できる環境を整え、地域に根差した魅力的な人材を育成・誘致する事業 大山町の日本遺産の魅力を発信するために行う、誘致及び事業を展開する団体を支援する事業 「牛馬の聖地 大山 ドリームカーフェスタ」 実績額：1,800,000円	日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のストーリーを活用し、大山の歴史を現代とつなぎ、地域活性に貢献するため「牛馬の聖地 大山 ドリームカーフェスタ2025」を実施した。 実施日 R7年9月28日 展示車両 36台(博労座第4駐車場、参道) <担当課分析> 天候に大きく左右されるが来場者は増加傾向であり、協力地元企業も出てきており、大山のイベントとして定着しつつある。展示されるスーパーカーのオーナーは県外の経営者であることが多く、大山山麓での事業実施を検討いただく機会ともなっている。またこのイベント以外の日に大山を訪れているという声もあり、日本遺産大山の魅力発信に寄与している。 今回のイベントでは新規に大山寺参道周遊を促すスタンプラリーを実施し、大山寺の歴史をはじめとする魅力に触れていただくことができた。来訪者へのアンケートより、満足度は高いが日本遺産のPRが課題である。	総合戦略のKPI達成に有効	・日本遺産とスーパーカーとの結びつきがわかりにくく、日本遺産の周知をもっとわかりやすくやって欲しい。 ・より多くの方に来ていただける幅広の情報提供・ツアーを組めば、より認知していただけて、より良い取組になると考える。 ・1万人以上も集まるイベントをいかに有効活用するか。牛馬市のPRも大事だが、来場者に町のファンになってもらうようSNS等でつながりを持ち、定期的に町の魅力を発信するべき。 ・ストーリー性をもったイベントとなっており、グリーンシーズンにおける域外からの本事業の集客の実績は、日本遺産発信のよい機会となっている。スタンプラリーは大山の歴史・文化・お店を紹介できる良い事業である。当日の参画事業者だけでなく、更なる地域への経済波及効果を期待する。 ・イベント単体の一過性の盛り上がりで終わらず、町の観光地としてのリピート率向上や、民間事業者への経済効果の定量化を求めたいところ。

**大山町地方創生事業の効果検証結果について
(令和7年度実施事業の検証)**

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
7	地域の資源を活かし魅力的で持続可能な産業を発展させる事業 「デジタル技術人材育成事業」 実績額：5,280,000円	主に事業者向けに3DCGを活用した製品等ブランディングやプロモーション映像制作を手掛ける東京都の事業者、株式会社G-WORKSに業務委託し、映像制作ソフトを活用した3DCG講習を実施した。 【講習内容】 期間 令和8年2月3日～3月10日 対象 大山町民、町内事業所勤務者 定員 15名 内容 全10回の講習(対面・オンライン)、企業ブランディング・広報活動基礎、3DCGソフト基礎・応用研修 <担当課分析> 最新の3DCGソフトの活用を学ぶため、ソフト動作環境を満たすパソコン貸与を含めた講習参加募集を行ったところ、学生や町内事業所勤務者、定年退職後の技能取得意向者など幅広い層からの受講希望があり、受講者は定員に達した。 受講者は3DCGソフト「UNREAL ENGINE 5」の基礎・応用操作習得にあわせ、それを活用した企業・製品ブランディングについてもそのノウハウを持つ事業者から直接指導を受け、講習最終日にはソフトを活用した映像作品を発表し合うなど、短い期間に密度の高い技術習得講習を受けることができた。 母数が少ない状況ではあるが、全体講習終了後の受講者アンケートでは、全員が3DCGソフト初心者であり、講習内容難易度を難しく感じた傾向が高かったが、教材を復習や準備、自習に活用した状況が明らかになったり、内容を今後仕事に活かしたいという意見の割合が高い、全体として満足度高い結果などの状況が確認でき、学習環境の整備により、難しいことにもチャレンジして技術習得を目指す意欲を最後まで継続した方が多い状況であった。	総合戦略のKPI達成に有効	・研修参加者のアンケート結果から、満足度が高く、仕事へ活用したいという参加者もあり、一定の効果はあったと思われる。 ・本当に技術を習得したい意欲のある人であれば、個人でもある程度の自己負担をしてでも受講するはず。全額町が負担するのではなく、個人にもいくらか負担してもらう方が、受講者のモチベーションも高まるのではないかな。 ・講習の成果を町内企業で活用する導線があるとなお良かった。 ・創業や新規事業には、リスクリテラシーが有効であり、国も推進している。県や他の自治体、大学とも協力してリスクリテラシー環境の整備には取り組んでほしい。 ・実施効果としてすぐに新たな事業創出や定住促進につながるのには難しいと感じるが、デジタル技術等を習得する機会の提供は有効と考える。但し、事業を企画するうえで、本セミナー内容のニーズがどれくらいあったか、また定員15名であると1人あたりの単価が352千円であり、今後においては受益者負担の検討など、費用対効果の検証が必要だと考える。各々のレベルもあるので、デジタル技術人材育成事業補助金として申請方式により一部を助成するなど、よりニーズにあった制度設計の見直し検討が必要と感じる。 ・幅広く募集するのではなく、町内で創業したいと考えている数名を対象に「創業支援」とパッケージにして、集中的にデジタルスキルを学んでもらい、そのまま大山町で起業してもらうような仕組みにすると、KPIの年間創業者数に直接結びつくと思う。 ・町内事業者のDX推進やデジタル活用力の底上げにおいて、基盤を作る有効な投資であったと評価できる。

**大山町地方創生事業の効果検証結果について
(令和7年度実施事業の検証)**

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
8	地域の資源を活かし魅力的で持続可能な産業を発展させる事業 「リスクリテラシー教育推進事業」 実績額：2,497,000円	株式会社CyberACE業務委託。全2部の講座を行った。第1部はオンライン形式で、業務改善における生成AIの使用方法や生成AIを使用する際のリスク等を学習した。第2部では、「Dify」を使用し作業の自動化ツールを作成するための基礎的知識と日常での生成AIの活用方法を学習した。第2部の発展的内容として、実際に「Dify」を使用した自動化ツールを作成する事後課題と、講座後も自身で学びを深められるよう、講座の内容や普段の業務を生成AIを使って改善する方法などについて各々が講師へ質問できる質問フォームを開放した。 <担当課分析> 最新のデジタル技術の習得による業務効率化に対応するDX人材育成を目的として、プログラミングやデジタルツール等に関するアウトプットスキルを習得する住民向け講座の実施に取り組んだ。大人の学び直しの充実により、時代が求めるスキルを向上・取得し、町内に暮らしながら魅力的な仕事ができる人材の育成を図ることに寄与できた。 2回講座で平均では94満足度が得られた。	総合戦略のKPI達成に有効	・講座の成果をどうPRしてIJUターンまたは新規創業につなげるのかまでストーリーがあるとなお良かった。 ・学生ベンチャーが生成AIを活用して企業の生産性向上を支援する例などもあるので、Difyを使った業務改善コンサルティングなど具体的な事業になると面白いと考える。 ・AIの需要はあり、田舎でも学ぶことができる環境の整備は必要。目的・目標にあった講座を選ぶような工夫があったらよかった。大人が学ぶ姿を子ども世代に伝えることも大事。 ・リスクリテラシー教育推進事業は、AI活用に対するニーズの高さもあり、町民・事業者など幅広い参加者となり、技術習得の良い機会となり有効である。 ・AIを活用した実践的なリスクリテラシープログラムであり、時代のニーズに合致している。 ・受講者の満足度も高く、町民のスキルアップを通じて働き方の魅力向上に寄与していると評価できる。 ・学んだスキルを活かして実際に町内で起業した人に対してインセンティブ（スタートアップ補助金等）を紐づけて起業家の増加へのルートを作る取り組みを検討してみてもどうか。
9	安心安全に暮らせる地域づくりを進め、いつまでも住み続けたい町を実現する事業 「放課後児童クラブ(ところご児童クラブ)」 実績額：943,704円	ところご児童クラブの開設にあたり、必要な備品を購入し環境整備を行う。 (主な購入備品) 冷蔵庫、カウンター、書庫、液晶テレビ、布団、掃除機、IHキッチンヒーター、敷きマット、おもちゃ等 <担当課分析> ところご児童クラブの開設にあたり、必要な環境整備を行うことができた。 今後も放課後児童クラブの利用希望者が一定数あることが想定されるため、ところご児童クラブを適切に運営していく必要がある。	総合戦略のKPI達成に有効	・児童クラブのニーズは高い。子どもの育つ環境を充実させる取り組みは続けていくべき。それによって、家族も安心して働くことができる。 ・子育て支援が充実しないために、町外に転出してしまおうことがないよう、子育て支援事業は先手を打って行うことが重要。 ・令和7年度のKPIにおいて、IJUターンが期待以上であったにも関わらず、人口社会増が達成されなかったことから、本事業のみならず転出者を抑制する対策が求められるのではないかと。 ・所子地区は若いファミリー層が増加している地域であり、この施設整備は今後の人口増加・発展に有効である。 ・児童クラブ開設によりIJUターン者数・社会増減者数に波及効果はあったのか、その可視化が必要ではないか。